



46

SAGA SAIKO
COMPANY PROFILE



製造業
(機械金属系)

株式会社 ア ク ア パ ス AQUAPASS

水だけの洗浄技術で
目指すのは世界一

水だけの洗浄に特化

電子部品についての汚れは、ほんの小さなものでも劣化や故障の原因になります。そのために洗浄という工程は不可欠。そこで超音波と水だけで洗浄できる装置を開発・製造しているAQUAPASS。

大正14年(1925年)に窯業機械を製造する企業“今泉鉄工所”として創業。「約30年前に電子部品メーカーから部品洗浄機械の製造依頼を受けたことがきっかけで、溶剤を使わずに水だけで洗浄できる超音波洗浄機“アクアパス”を開発しました」と松尾社長。

同社の強みは、お客さまのさまざまな要望を解決できる対応力。洗浄したい製品は付着するゴミや形状もさまざまで、製造ラインも違う。お客さまの環境に合った洗浄機を提案するためオーダーメイドで、設計から製缶、加工、組立、試運転まで全てを自社で行っています。松尾社長は「お客さ

まに対してなぜアクアパスを選んでいただいたのかと伺った際は、どの企業も水だけで洗浄するという環境性の良さを認めていただいています。これまでの洗浄は有機溶剤を使い環境に悪いだけでなく、働く従業員の健康にも悪かった。水だけの洗浄装置は人にも環境にも優しい。そこに評価を受けています」と自信を持って話します。

世界一への挑戦

同社は技術的な特許も取得し、事業の方向性の明確化とグローバルな事業展開を進めるため、平成23年(2011年)に社名と製品名を“AQUAPASS”に統一し、海外を含めた対外的なブランディングにつなげました。現在では中国などのアジア圏はもとより、アメリカ、イギリスなどにおいても“AQUAPASS”の名前は洗浄機の世界的トップメーカーとして認められています。今

後はさらに海外に向けた標準機を作り、事業を展開していく予定で、「世界一の洗浄機メーカーを目指したい」と松尾社長。AQUAPASSは世界に向け挑戦を続けます。



取締役社長
まつお しゅんいち
松尾 俊一

水のみで洗浄する
超音波洗浄機
“AQUAPASS”



株式会社AQUAPASS

☎ 0955-46-5631

[所] 西松浦郡有田町北ノ川内丙325-3

[代表者] 代表取締役会長 今泉 浩一(いまいずみ こういち)

[創業] 大正14年(1925年)

[従業員] 35名

[HP] <http://www.aquapass.co.jp/> AQUAPASS 検索

このポイント!



超音波洗浄機“AQUAPASS”の洗浄では、フロンなどでも落とせない指紋を水だけで落とすほどの脱脂力と微粒子除去能力を発揮します。スマートフォンや電子精密機器の中にある部品の洗浄には欠かせない存在になっています。

株式会社
ウェアサーブITの技術で
企業の多様な課題を解決

IT技術で企業の経営支援

あらゆる業種でITの導入が進んでいますが、主に企業を対象に、ITを使った新しいサービスで業務改善などをサポートしてきたのがウェアサーブです。さまざまな基幹システムやWebコンテンツを開発し、経営の効率化や売上増に貢献しています。

最大の強みは、システム開発から販売促進までワンストップで経営支援ができること。“ビジネスにおいては経費減と収益増の両輪をうまく回すことが大切”とホームページ制作はもとより、Web広告ツールの運用などITの技術を最大限に発揮します。

また、県内運送会社の組合が運営する運送管理システム“そらうど”の開発と運用を担当するなど、クラウドサービスも展開しています。

同社が開発した自動車学校の教習管理システムも、クラウドで運用されているた

め、令和元年（2019年）8月に発生した水害でも、導入先の自動車学校はデータの消失を免れ、早期に営業を再開できました。

「基幹システム導入は買わずに利用することがこれから主流になります」と益田代表。クライアントとのコミュニケーションを図りながら、時代のニーズに合ったサービスを届けています。

MRコンテンツの開発

いつも“楽しくワクワクする何か”をアップデートする益田代表の方針は、ITを使った新しい分野への取組にも表れています。特に、マイクロソフト社の“ホロレンズ^{※1}”を使ったMRコンテンツの開発には、2年をかけて注力してきました。

肥前さが幕末維新博覧会の特別展では、ホロレンズでパズルを組み立てる体験展示で他社と協力。“複合現実（Mixed

Reality）”と呼ばれるMRは、今後、AI^{※2}と組み合わせ、医療、建設業、製造業などあらゆる業種での活用が期待されます。

また、AIやIoT^{※3}の技術で林業などの1次産業における人手不足の解消などを目指すプロジェクトも他社と共同で進行中。佐賀県の地域課題をIT技術で解決すべく、ウェアサーブの挑戦は続きます。



※1 ホロレンズ：Windows10を搭載した頭につけるタイプのホログラフィックコンピュータ

※2 AI：人工知能のこと ※3 IoT：モノのインターネット。あらゆるモノをインターネットに接続すること

ホロレンズを使用した
MRコンテンツを開発



代表取締役
益田 智



株式会社ウェアサーブ

☎ 0952-97-8541

[所] 佐賀市栄町6-25 FLEX佐賀駅前2F

[創業] 平成19年（2007年）

[従業員] 10名

[HP] <http://www.wareserve.co.jp/> ウェアサーブ 検索

ポイント



業種を問わず、顧客企業と密にコミュニケーションをとりながらIT技術による新たな基幹システムを開発。コストカットだけでなく、収益を上げる仕組みづくりも行います。クラウドサービスやMRコンテンツの開発事業にも力を入れ、あらゆる分野でのIT化をサポートしています。



48
SAGA SAIKO
COMPANY PROFILE



株式会社 川口スチール工業

太陽光で世界を駆ける

超薄型太陽光を武器に

金属の屋根や雨どいなど屋根を中心とした建築板金の企業として、昭和5年(1930年)に創業した川口スチール工業。工場やショッピングセンター、鳥栖スタジアムなど、産業用施設の屋根や大型施設の屋根を手掛けています。また、平成16年(2004年)頃からは太陽光発電も手掛け、これまで培ったノウハウを生かし、どのような屋根にも対応できるパネルとその架台の設計から施工までを行っています。

業界でも早い時期から太陽光発電に取り組んだ同社でしたが、初期の太陽光パネルは重く、産業用施設の屋根には合いませんでした。川口代表は「産業用施設の屋根に使えるパネルを探し、その中で見つけたのが薄型太陽光パネルでした」と話します。

その後、自社で薄型・超軽量の産業用フィルム型太陽電池パネルを開発したこと

で強度の弱い屋根でも太陽光発電が可能になり、産業用太陽光発電設備の国内シェア1位にまで成長しました。

太陽光でアフリカを灯す

事業を行う中で、平成22年(2010年)にアフリカでビジネスチャンスを見出した川口代表。アフリカは高温少雨のため土ぼこりが多く、パネル型の太陽電池では土がこびりついて使えなくなるという課題がありました。

同社のフィルム型太陽電池パネルは、丸太などに巻き付ける方式で、現地で簡単に施工ができ場所を選びません。「アフリカは、まだ電化率が0%に等しい状況。スマートフォンの普及などで電力需要が高まる中で、太陽光発電が急速に広がる潜在力があると感じました」と川口代表。これまでODAとしてアフリカで行っていたフィ

ルム型太陽電池パネル設置事業をより持続的なものにするため、日本で設置した太陽光発電設備の利益によりアフリカでのフィルム型太陽電池パネルの設置を進める“GOOD ON ROOFS”という組織を立ち上げ、多くの企業の賛同を得ています。

川口代表の太陽光発電事業は佐賀から世界に羽ばたきます。



代表取締役
かわぐち のぶひろ
川口 信弘

軽量で使いやすい
フィルム型太陽電池
パネル



株式会社川口スチール工業

☎ 0942-83-6331

[所] 鳥栖市原町760-6

[創業] 昭和5年(1930年)

[従業員] 12名

[HP] <http://www.steel-k.com/> 川口スチール工業 検索

このポイント



“GOOD ON ROOFS”は途上国の電化率向上のため、企業のオフィスや工場などに太陽光パネルを設置し、生成した再生可能エネルギーの利益の一部で途上国での太陽光パネルの設置を支援しています。この取組は九州未来アワード2019でグランプリを受賞しました。

49

SAGA SAIKO
COMPANY PROFILE



製造業
(機械金属系)

九州住電精密 株式会社

世界トップシェアを支える
ものづくりの技術



高性能・高品質を目指して

昭和39年(1964年)、住友電気工業の製造拠点として設立した九州住電精密。昭和45年(1970年)には日本で初めてプリント基板の高精度穴あけ加工などに用いるマイクロドリルの生産を開始するなど、ものづくりの根幹を支える高精度・高性能の切削工具を長年製造しています。

同社で製造を開始し、直径0.1ミリメートルまで小さく進化したマイクロドリルは、穴あけ加工の方法がドリルからレーザーへと移行したことから役割を終え、平成26年(2014年)に製造を中止しましたが、その製造技術を継承、深化させ、現在ではさらに小さい直径0.02ミリメートルの微細ドリルを製造しています。

また、ダイヤモンドに次ぐ硬さを持つCBN※を使った“スミボロン”インサートは、世界1位のシェアを誇ります。それまでは研削中心で加工を行うことが主だった焼入銅

の加工や鋳物の高速加工などに高い性能を発揮し、お客さまから好評を得ています。

さらに、平成27年(2015年)には超微粒のダイヤモンドを高密度に焼結したダイヤモンドインサートの生産に取り組むなど、ものづくりの技術をお客さまのニーズに合わせて進化させてきました。

お客さまの多様な要望に応える

同社では、特殊形状や高精度対応などお客さまからの多様な要望に対し、スミボロン、スミダイヤなどのオーダーメイド工具の提案から製品供給まで一貫して行うことができます。そして、お客さまの日進月歩の生産技術の進化を支え、それに応えるため、自社製品に求められる品質と性能を限りなく追求しています。

また、社内にはツールエンジニアリングセンターを設置して、お客さまが実際に加

工している被削材を持ち込んでいただき、テストカットすることで、より深い技術を提案。お客さまのさまざまな加工トラブルに対するソリューションや加工ライン全体のライン診断、新規ラインのツーリングサポートも行っています。

九州住電精密は、これまで蓄積してきた技術力と多様な製品を革新、融合させることで、社会変化による新たなニーズに応えるとともに、グローバル市場に対して優れた製品、技術、サービスを提供し続け、持続的な成長を図っていきます。



※CBN：ホウ素と窒素からなる人工的なダイヤモンド結晶構造の化合物

ダイヤモンドに次ぐ硬さを持つ
CBNを使った“スミボロン”
インサート FV Type



九州住電精密株式会社

☎ 0952-82-3225

[所] 杵島郡大町町大字福母2374

[代表者] 代表取締役社長 坂田 利光(さかた としみつ)

[設立] 昭和39年(1964年)

[従業員] 280名

[HP] <https://www.kyushu-sumiden.co.jp/> 九州住電精密 検索

ポイント



切削工具はその性能だけではなく、工具で作った製品の精度を長く維持させることも重要です。そのために九州住電精密では、工具一つ一つを高い技術で製造することはもちろん、品質管理のため、自動検査装置や検査スタッフの厳しいチェックを経て最高品質の製品を提供しています。



50
SAGA SAIKO
COMPANY PROFILE



製造業
(機械金属系)

九州精密工業 株式会社

日本のものづくりを支える
歯車製造用工具のプロ

46年のノウハウ

昭和49年(1974年)に切削工具を作る企業として創業した九州精密工業。現在は、日本で数社しかない自動車やロボットなどで使用する、精密な歯車を作るための歯車製造用工具専門メーカーです。

同社の強みはミクロン単位の精密な歯車を作ることができる高品質・高性能な切削工具を作る技術で、お客さまが求めるさまざまな製品を一つ一つオーダーメイドで製作しています。そこには、創業者である福田健一会長のものづくりへの理念とノウハウが大きく影響しています。

「今の工作機械はアナログではなく、コンピュータ制御になっています。しかし、若い人たちがただプログラムを入力したとしても良い製品にはなりません。福田会長はたたき上げの職人なので、音を聞いたり火花を見たりするだけで精度が分かります。そのため、コンピュータ制御で作る機械に対

して、“これはおかしい”、“調整しなさい”と指摘することも多いです。若い人たちは福田会長のものづくりに対する理念をしっかり受け継いで、新たなものづくりに挑戦しています」と福田社長は話します。

日本のものづくりを支える

お客さまから求められる品質はますます高くなってきており、高品質で高性能な製品を作るためには、同じように高いクオリティの切削工具が要求されます。「作った製品の精度が維持できているか徹底した品質管理をし、少量多品種にも対応できる生産管理、高精度な工具の開発に取り組んでいきます。私たちの作った工具が日本の最高クラスのものづくりにつながっているのだと自信を持ち、さらに切削工具のプロとして組織力を高めていきたいです」と福田社長。

歯車を作る工具メーカーとしての自信と誇りが、日本のものづくりを支えています。



代表取締役社長
ふくだ ひろし
福田 裕志

国内シェア1位の
パワースカイ
ビングカッター



九州精密工業株式会社

☎ 0952-68-3001

[所] 佐賀市久保田町大字久保田1512

[創業] 昭和49年(1974年)

[従業員] 180名

[HP] <http://www.q-seimitsu.co.jp/> 九州精密工業 検索

このポイント!



九州精密工業のものづくりを支えているのが開発力と設計力の高さです。お客さまからの細かい要求に対し、これまで培ってきた切削工具製作のノウハウや設計思想を最新の解析技術で、データ化、数値化することによって、高い精度の製品が生まれています。



株式会社 九州トリシマ

高効率にこだわったポンプで
日本経済を支える



品質と効率を追求し抜く

ポンプメーカー西島製作所の標準ハイテクエコポンプの生産拠点として誕生した九州トリシマ。世界最高水準の効率化を実現した小型の標準ポンプを年間6,000台製造しています。

「互換性の高い標準ポンプですが、多種多様なお客さまの要望に対応するため、全て受注生産を行っています。ポンプを通ず液体や設置環境など、用途に合わせて設計・組立・設置をし、最高の効率を発揮するポンプを提供しています」と代表社長。

組み立て後は綿密な性能試験を行い、品質と効率をチェック。メンテナンスやアフターサービスも万全で、常に最適に稼働する製品づくりを追求しています。

それを支えているのが、熟練した技術者たちで、毎年、多くの社員が技能検定に挑戦し、技能士の資格を取得しています。

3者一体のものづくり

常に最高の効率で稼働し、お客さまにメリットのある製品づくりに取り組むため、売る人・使う人・作る人が知恵と意見を出し合える、3者一体の関係を目指す同社。

中が見えないポンプに小型センサーを取り付け、IoT※で機器の運転状態をモニタリングできる“TR-COM”で事前に異常を察知。メンテナンスの手間やコストが削減できると喜ばれています。

さらに毎月、社外の人も参加できるポンプ研修会を開催し、基礎知識の勉強や組み立て体験を実施しています。ポンプの仕組みが分かるとユーザーからも好評で常に満員になる人気講座です。

また、地域貢献にも積極的で、母体会社である西島製作所の先代の社長が昭和56年(1981年)から始めた原田記念財団による県内の高校生への奨学金事業は現在も続いています。

「今後はサービス事業面に力を入れるとともに、さらに効率化を極め、製造台数を増やしていきたいですね。また、世界でインフラが整備されていない国や地域がありますので、しっかりしたものづくりの技術と製品で貢献していくことがポンプ屋の使命だと思います」と代表社長の展望は広がります。



※IoT:モノのインターネット。あらゆるモノをインターネットに接続すること



代表取締役社長
おおいえ みちひろ
大家 満彦

主力のCAシリーズ
“片吸込渦巻ポンプ”



株式会社九州トリシマ

☎ 0954-26-3081

[所] 武雄市若木町大字川古9857-13

[創業] 平成4年(1992年)

[従業員] 85名

[HP] <https://www.torishima.co.jp/> 九州トリシマ 検索

このポイント!



軸の回転による、遠心力で中の液体を流動させるポンプ。その軸を動かすモーターの必要電力は、日本の使用電力の約3割に上ります。高効率にこだわったエコポンプは約10%の電力費とCO₂の削減を達成。その取組が評価され、平成26年度(2014年度)には経済産業省の省エネ大賞を受賞しました。

たエコポンプは約10%の電力費とCO₂の削減を達成。その取組が評価され、平成26年度(2014年度)には経済産業省の省エネ大賞を受賞しました。



52
SAGA SAIKO
COMPANY PROFILE



古伊万里酒造 有限会社

伝統の技を礎に
一步「前」を進み続ける酒造り

時代に合わせた酒造り

焼き物の積み出し港として栄えた伊万里的地で、明治42年(1909年)に創業した古伊万里酒造。「創業当時は前田酒造でしたが、先代(父)が地元の誇りである“古伊万里”という名の酒を造りたいと社名を変更しました」と4代目蔵元の前田代表。清酒“古伊万里”は地元で愛される地酒として根付き、平成20年(2008年)には一歩先を進む新ブランドとして“古伊万里 前”が誕生。平成25年(2013年)には全米日本酒鑑評会でグランプリを受賞すると一気に知名度が上がり、今や海外にまで販路が広がっています。

世界で評価される銘酒を生み出しながらも、小規模な酒蔵にとっては生産現場の効率化が課題となり、平成28年(2016年)に大規模な設備投資を実施。「搾り機を木槽から藪田式圧搾機に変更。酒質は変わりましたが、味わいがきれいになって品質

も安定しました」と前田代表。他にも、遠隔地からこうじやもろみの品温がチェックできる管理システムを導入して作業環境を改善。歴史ある酒蔵の伝統を次世代に引き継ぐため、スタッフの働きやすさを追求する新しい酒造りが始まりました。

世界で愛される日本酒に

“前”シリーズは限定流通酒で、国内外約70軒の酒販店等と直接取引をしています。信頼できる取引先からの率直な意見は、日々の酒造りに生かされ、造り手の励みにもなります。

海外販路も同様で、現在、韓国、中国、フランス、イギリスなど7カ国に輸出していますが、現地販売店との直接取引がほとんど。「今や日本食レストランに日本酒があるのは当たり前。海外市場で日本酒が生き残るには、料理のジャンルに関係なく、料

理とのペアリングでソムリエが薦めたいくなる一本になることが必要です」と前田代表。日本酒の消費人口や消費量が減少傾向にある中、国内外にかかわらず“日本酒と言ったら古伊万里酒造”と、選ばれる一本になることが大きな目標です。

古伊万里酒造の躍進を支えているのは、地元に着した酒造り。しっかりと地元で根を張って地盤を固めているからこそ、世界中の飲み手を笑顔にする酒を醸し続けることができます。



“古伊万里 前”の純米吟醸は令和元年(2019年)に英・仏・米3カ国のSAKEコンテストで金賞を受賞

代表取締役
まえだ くみ子
前田 くみ子



古伊万里酒造有限会社

☎ 0955-23-2516

[所] 伊万里市二里町中里甲3288-1

[創業] 明治42年(1909年)

[従業員] 9名

[HP] <https://sake-koimari.jp/> 古伊万里酒造 検索

このポイント



“前”シリーズのヒットをきっかけに、地元から九州全域、都市圏、ついには海外にまで販路が拡大。積極的な海外展開を後押ししたのは、JETRO(日本貿易振興機構)による支援サービスです。韓国、中国などアジア圏へのアクセスの良さも大きなポイントになりました。

53
SAGA SAIKO
COMPANY PROFILE



製造業
(食品系)

サンポー食品 株式会社

40年愛されるカップ麺
九州外にもシェア拡大



味を守り続ける努力

豊かな風味が本場の豚骨ラーメンを思わせるカップ麺“サンポーの焼豚ラーメン”。サンポー食品が昭和53年（1978年）に発売して以来のロングセラーで、幅広い世代の人に親しまれています。

同社は、大正10年（1921年）に精米業として創業、昭和24年（1949年）に製粉・製麺会社を設立し、令和元年（2019年）6月に設立70周年を迎えました。当初は乾麺のそうめんやうどんなどを中心に製造。その後、即席棒状ラーメン“三寶ラーメン”を発売し、“サンポーラーメン”の愛称が広まったことで、現在の“サンポー食品”に社名を変更しました。

カップ型即席麺“長崎ちゃんぽん”を発売した翌年の昭和53年（1978年）に“焼豚ラーメン”は誕生。5代目の大石社長は「おかげさまでおいしいと言って食べていただき、今に至ります。大事に育ててくださった

お客様の期待を裏切ることのないよう、“おいしさ”を大切にしています」と話します。環境などの変化で、原料も変わる中、スープ一つでも同じ味を保ち続けるのは、簡単なことではありません。食べる人の安心や満足を第一に、長く愛された昔ながらの味を変えない努力が続いています。



自由な発想で商品開発

少子高齢化の影響や人々の嗜好の多様化への対応など、時代を見据えた動きも大手企業に負けない姿勢の一つです。同社の商品開発部は、毎年200種類もの案を企画会議にかけ、そのうち30近くの新品を世に送り出しています。地元のラーメン店とのコラボ商品、その他消費者のニーズに合わせたさまざまな商品が店頭に並びます。

古川取締役・製造本部長は「開発する際はスープや麺、かやくなどと分けず、1人で一つの商品にじっくり取り組むところが、大規模な会社にはない魅力かもしれません」と話します。

現在、商圏は九州内だけでなく、関東や一部は東北にも及ぶほか、台湾などの海外にまで拡大中。自由な発想と味へのこだわりを持ちながら、佐賀県を代表する食品会社として、九州内外へとファンを増やしています。



代表取締役社長
おおishi たかのり
大石 忠徳

基山町産の菊芋を
使用した商品



サンポー食品株式会社

☎ 0942-92-2511

[所] 三養基郡基山町長野230

[創業] 大正10年(1921年)

[従業員] 100名

[HP] <https://www.sanpofoods.co.jp/>

サンポー食品 検索

ポイント



主力の焼豚ラーメンは、長年にわたり九州の定番として幅広い世代に親しまれるヒット商品。“関東でも販売してほしい”といった声も多く、近年は関東や海外など九州外へと販売エリアを広げています。

西研グラフィックス 株式会社

新聞印刷周辺機器を開発
精度の高さでシェア1位

新聞印刷分野で技術を醸成

令和2年(2020年)で創業70周年を迎える西研グラフィックス。戦後、新聞輪転機を保守する工場が九州にも渴望され、初代の並田勇社長が“西部印刷機研究所”として創業しました。その後、新聞印刷の付属機器製造へと発展し、鉛版鑄造機の高い品質が認められ、全国に事業を拡大。オフセット輪転機への転換期に岐路に立たされながら、ものづくりの力で時代の荒波を乗り越えてきました。

中でも注目すべきは高性能な新聞搬送機器“CSGキャリア”。新聞を確実につかんで運ぶセンターグリップが特長で、改良を重ねた現行モデルは国内シェア1位の製品です。つかんだ際のインクが転写しない、安定性が高いなど顧客の要望に応える性能を追求し、“キャリアは西研”と言われるほど評価されています。

また、新聞輪転機の製造も約60年の歴

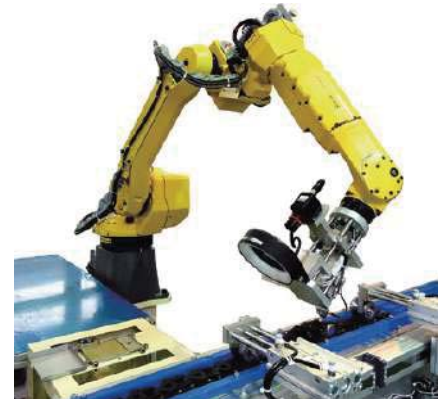
史があり、国内に3社あるメーカーの一つです。平成14年(2002年)には日本初の4×1輪転機を開発。軽量かつコンパクトで、ランニングコストの削減などを実現し、現在では国内の主流タイプとなるほか、中国、インドへもシェアを広げています。

システムの自動化にも貢献

大型機械の製造で培われた技術とその精度の高さは、さまざまな分野への応用が見込まれ、新しい事業にもいち早く挑戦しています。ロボットによるシステムの自動化もその一つ。例えば、危険を伴う熱間鍛造加工の際の自動化装置を開発したり、キャリアの内部検査に多関節ロボットを活用したりと多岐にわたります。三次元測定器による計測技術も提供。また、同社から独立した西研トレーディングでは、海外からの部品を安定供給するサプライチェーンを構築するなど、しなやかな発想と技術力を駆

使した展開が注目されます。

3代目の並田社長は「開発から製造、販売、アフターサービスまで全てを自社で行い、責任を持ったものづくりを大切にしています。自社の強みを生かして世の中のニーズに応えていきたい」と話し、“技術立社”、“顧客第一”の基本姿勢を守りながら未来へシフトしています。



安定性・信頼性が向上した
新聞搬送キャリア



代表取締役社長
なみた しょうた
並田 正太



西研グラフィックス株式会社

☎ 0952-52-8515

[所] 神埼郡吉野ヶ里町吉田135

[創業] 昭和25年(1950年)

[従業員] 125名

[HP] <http://www.seiken-g.com/> 西研グラフィックス 検索

このポイント



製品の品質を維持していく上で、測定や確認を行う作業は今後ますます重要になります。接触型の三次元測定機では測定困難な大型の構造体も西研グラフィックスが所有するレーザー式三次元測定機を使えば測定が可能で高精度な測定サービスも行っています。

55
SAGA SAIKO
COMPANY PROFILE



製造業
(機械金属系)

武井電機工業 株式会社

お客様の要望を
カタチにする職人集団



設計から製造まで自社管理

時代のニーズとお客さまの要望に、高度な精密制御機械技術で応える武井電機工業。モーターや変圧器の修理業から始まり、制御盤・配電盤などの電気制御機器の製造にまで活動の幅を広げることで、エレクトロニクス関連の制御技術に磨きをかけられました。

「我が社の強みは、電気設計と機械設計、さらには製造からメンテナンスまで一貫して自社で行う生産体制です。電気・機械・光・情報を独自のアイデアと発想で複合技術へと作り込めるところに真骨頂があります。社員同士の密なチームワークによってそれを可能とし、常に高品質のものづくりに取り組んできました」と武井会長。

設計から組立まで自社で行う企業は珍しい上に、光学設計やその調整までも行うのは国内でも同社のみ。スモールビジネスでも一目置かれる企業を目指し、どのよう

な要望にも対応できる柔軟性とそれを可能にする技術力で成長し続けてきました。

圧倒的な技術力

自社製品の開発に力を入れ、佐賀県から技術支援を受けたり産学連携に取り組んだり、同社は新たな技術開発を積極的に行い、数々の特許を取得。中でも平成28年(2016年)に特許を取得し、九州地方発明表彰で発明奨励賞を受賞した“レーザ加工方法及びレーザ加工装置”は、スマートフォンやタブレットなどで用いられているタッチパネルディスプレイを加工するための装置で、国内はもとより世界でもトップレベルと評されています。

集光性を持つレーザ光は複雑な図柄も圧倒的なスピードで正確に切り抜き、多様化し需要が高まっているエアバックや車載用ディスプレイのための異形状フィルム

加工でも生かされています。

「我が社の根底にあるものは社員の幸福です。ものづくりが好きな社員とともに、常にお客さまの要望に応えたいと、努力を重ねてきました。これからも“やっぱり武井じゃないと”と言われる製品づくりに取り組んでいきます」と武井会長を筆頭に職人魂を燃え上がらせませす。



代表取締役会長
たけい くにお
武井 邦雄

レーザ加工装置により
0.8秒で加工されたフィルム



武井電機工業株式会社

☎ 0942-89-4151

[所] 三養基郡みやき町江口2617

[創業] 昭和11年(1936年)

[従業員] 149名

[HP] <http://www.takei-ele.co.jp/> 武井電機工業 検索

このポイント



“タッチパネルのフィルム用レーザ切断装置開発※”は、平成30年(2018年)に第7回ものづくり日本大賞で九州経済産業局長賞を受賞しました。正確さと圧倒的な処理速度は国内外からも高く評価され、導入が進められています。

※平成26年度(2014年度)・平成27年度(2015年度)の“戦略的基盤技術高度化支援事業”(経済産業省)において、九州大学と佐賀県工業技術センターとの共同研究により実施したものです



56
SAGA SAIKO
COMPANY PROFILE

製造業
(食品系)

竹下製菓株式会社

“おいしい”、“楽しい”を
追求し続ける

九州を代表するアイス

“ブラックモンブラン”、“ミルクック”といえば佐賀だけでなく、九州の人にとっても馴染み深いアイス。食べ終わった後、バーについている当たりくじにワクワクした人も多しはず。

竹下社長は「商品がおいしいのは大前提になりつつある時代ですが、そこに加えて“楽しい”があるのが我が社ならではの当たりくじをつけ、遊び心に溢れた商品やキャンペーンを企画してきました。商品を通してくださるお客さまをはじめ、世の中をハッピーにしたい。それが経営理念にもある“社会に奉仕する”ということにつながってくると思います」と笑顔を輝かせます。

竹下製菓の代名詞とも言えるブラックモンブランはそのシリーズだけで、年間2,000万本以上を製造。常に材料や食感を見直すなどおいしさを追求し、変化し続けています。

どんどん新しい商品が世に出ている中でも選んでいただけるよう、「定番商品の基本戦略は変えず、お客さまのイメージからも逸脱せず、気付かれぬようにおいしくしています」と竹下社長。

さらに、当たりくじの企画が毎年変わるため、パッケージもその都度リニューアルするこだわり。

当たりくじというシンプルな楽しさは子どもたちの心に響くものがあり、大人には懐かしさを思い起こさせます。



菓子とアイスの両輪で

アイスの印象が強い同社ですが、マシュマロやようかんなどの菓子も有名です。それもそのはず、同社は製菓で創業しましたが、夏場の売上の落ち込みを補うために60年ほど前からアイスの製造を始めました。

「長年会社を支えてくれたのは“鶴の里”などの菓子です。今はアイスの割合が多いですが、菓子にも力を入れ、アイスと菓子の両輪でさらに経営を安定させたいですね」と竹下社長は展望を語ります。

その突破口として誕生したブラックモンブランをクランチバーにしたお菓子は、手土産にもってこいと駅や空港、サービスエリアなどにも置かれ、人気商品となっています。

「さらに販路を拡大し、食べたいと思ってくださる人の元にお届けできるよう、これからも営業にも力を入れていきたいです」と竹下社長の挑戦は続きます。



代表取締役社長
たけした まゆ
竹下 真由

“ブラックモンブラン”と
ようかん“やどり木”



竹下製菓株式会社

☎ 0952-73-4311

[所] 小城市小城町池の上2500

[創業] 明治27年(1894年)以前

[従業員] 90名

[HP] <http://takeshita-seika.jp/> 竹下製菓 検索

ココポイント



創業から120年以上の歴史を持つ竹下製菓。その長い歴史を支えてきたのはおいしさと楽しさを追求し、消費者のニーズや時代に合わせて変化し続ける柔軟さにあります。ロングセラーのブラックモンブランはバリエーションが豊富で、全国的にも高い知名度を誇ります。

天山酒造株式会社

世界が認めた佐賀の酒



佐賀の恵みに育まれて

145年にわたり清酒、焼酎、リキュールの製造・販売を行っている天山酒造。天山の清らかな湧き水と佐賀平野でとれた酒米を使い、昔ながらの酒造りにこだわった日本酒は、芳醇な米のうま味を感じます。

七田社長は日本酒のおいしさを広めるため、フランスで開催されている日本酒コンクール“Kura Master”に挑戦。フランスのトップソムリエが料理と日本酒の相性の良さという観点で審査する大会で、国際的にも注目されています。そこで“七田”の純米吟醸“雄町”が最高賞のプレジデント賞を獲得し、国内外にその名を知らしめました。

「Kura Masterでの受賞は欧州での販路拡大への大きな自信となり、欧州諸国で声をかけていただく機会も増えました。また、授賞式の様子が国内のテレビで報道され、佐賀酒の認知度を高める良いきっかけになりました」と笑顔の七田社長。

現在、販路はアメリカやアジアを中心に世界26の国と地域に広がりました。

“不易流行”の酒造り

同社では松尾芭蕉が説いた“不易流行”の考えを根本に、創業以来大切にしている品質第一主義や自然の豊かさを生かした酒造りはそのまますつつ、消費者のライフスタイルや時代に合わせた商品開発に力を入れています。

その結果、日本酒の低アルコール化に成功。度数が低くても、米本来のうま味を表現し、味わいとバランスを保つ製造技術を開発しました。さらに、シャンパンと同じく瓶内二次発酵させたスパークリング日本酒は女性からも人気です。

「日本酒は和食と合うのはもちろん、世界各国の料理との相性も良い、懐が広い飲み物です。ワインやビールのように、日本酒

も浸透するとうれしいですね。また、お肌やアンチエイジングにも良いのです。日本酒の魅力に気付いてもらえるような機会や場をつくり、情報発信に力を入れて、このおいしさを知っていただきたいです」と質にこだわった酒造りに挑み続けます。

代表取締役社長
しちだ けんすけ
七田 謙介

天山スパークリング



天山酒造株式会社

☎ 0952-73-3141

[所] 小城市小城町岩蔵1520

[創業] 明治8年(1875年)

[従業員] 22名

[HP] <http://www.tenzan.co.jp/> 天山酒造 検索

cccポイント



平成29年(2017年)のKura Masterでプレジデント賞を受賞した“七田”の純米吟醸“雄町”は、香りが華やかで米のうま味がしっかりと引き出されたバランスの良い酒。国内外の数々のコンクールでも入賞し、高い評価を得ています。



58
SAGA SAIKO
COMPANY PROFILE

製造業
(コスメ系)

株式会社トレミー 九州唐津工場

世界品質の化粧品づくりの
黒子役

化粧品づくりのパイオニア

昭和12年(1937年)にパウダー製造業として創業し、昭和58年(1983年)に設立したトレミー。化粧品のOEM※1メーカーとして、化粧品のメーカーや販売会社からのさまざまな要望に応え続けています。

同社の強みは、化粧品の研究から製造、納品まで、一貫した体制でものづくりを行えるところです。「化粧品の企画開発から製造までを行うことで、お客さまのご要望や目的だけではなく、ものづくりを行う中での達成感も共有することが大切だと考えています」と鈴木代表。一貫した体制を生かし、OEMだけでなく、自社で企画した商品をお客さまに提案して製品化するODM※2にも取り組んでいます。鈴木代表は「あえて自社ブランドは持っていません。私たちは化粧品の総合プロデュース業として、お客さまの要望全てに“高品質”でお応えできるよう、日々研究を重ね、最高のビ

ジネスパートナーであるための努力を続けています」と話します。

九州唐津工場でさらなる品質向上を

国内はもとより海外のお客さまのニーズにもより幅広く対応するために、平成24年(2012年)には唐津市に工場を設立しました。「唐津を選んだのは、唐津の企業と唐津市が中心となって行っている“唐津コスメティック構想”という化粧品産業の集積化の計画に賛同したためです。また、唐津はアジア市場への玄関口ということも決め手の一つでした」と鈴木代表。

工場の品質レベルは設備・管理の両面で万全の体制を整えて、クリーンかつクオリティの高い化粧品づくりを行っています。また“ジャパン・コスメティックセンター(JCC)”の一員として、化粧品原料の開発による農林水産業の活性化やグローバル

展開支援などを推進しています。トレミーは、一般的な“基礎化粧品”から“医薬部外品”まで、お客さまに寄り添った時代の先端を行く製品の研究を重ねて、“高品質”にこだわった製造技術と生産体制を提供しています。



※1 OEM: 委託者のブランドで製品を生産すること
※2 ODM: 委託者のブランドで製品を設計・生産すること



代表取締役
すずき こうじ
鈴木 幸司

トレミーが企画した
レディメイド商品



株式会社トレミー 九州唐津工場

☎ 0955-70-4881

[所] 唐津市浜玉町浜崎1901-460

[設立] 昭和58年(1983年)

[従業員] 90名

[HP] <https://www.toremy.co.jp/> トレミー 検索

ポイント



トレミー九州唐津工場は、エアシャワー室や空気循環殺菌装置などをはじめ、製造室や充填室にもクリーンユニットを設置。衛生管理の行き届いた環境で品質の安全を厳守しています。徹底された品質管理で化粧品づくりに取り組んでいます。



株式会社 中島製作所

高い技術で多品種製造
お客さまのためのものづくり



細かいニーズにも対応

大正14年(1925年)に創業し、現在は半導体製造装置の金属部品加工を中心にしている中島製作所。その強みは、独自の管理システムによる多品種の製造と短納期の対応力です。

「半導体製造装置はお客さまからさまざまな仕様に関するご要望があります。特に部品の種類は何万点とあり、2~3個の小ロットの仕事が何千件と来るので、マンパワーでは納期の把握ができずにいた時期もありました」と中島社長。その改善のため、独自で生産管理システムを開発し、業務の見える化を図ったところ、納期の遅延がゼロになりました。確かな信頼を得たことで、取引先から高い評価を受けています。また、生産設備の一部は自社で製造し、その現場に合ったものを自分たちが使いやすいように設計・開発することで、生産性の向上につなげています。

積極的に新製品を開発

“下請けだけではなく、よりお客さまと近い距離でお仕事をし、付加価値が高いものを提案したい”という中島社長の熱い思いから、平成22年(2010年)に自社製品を作る製品開発部を立ち上げ、国内初のマイクロ波で食事を温め直す機械“ミールシャトル”を開発しました。これまで病院の入院食を温める機械は、温風での再加熱方式のため、ごはんは乾き、野菜の色は変色するなどの欠点がありました。そこで中島社長は“金属加工のノウハウで何かできないだろうか”と、佐賀大学にも相談し、何度も試行錯誤の上、ミールシャトルを製品化することに成功しました。ミールシャトルは病院や介護施設で利用され、その便利さが好評で県内では佐賀大学医学部附属病院に導入されています。平成30年(2018年)には経済産業省のものづくり日本大賞を受賞しました。

また、マイクロ波加熱の技術によって、発泡コンテナに入れたまま短時間で6食を温められる“HOT・PIT”などの新たな自社製品の開発にも余念がありません。今後、さらに自社製品事業を伸ばしていく中島製作所の挑戦は続きます。



代表取締役社長
なかしま ひろき
中島 弘喜

日本初のマイクロ波
再加熱カート
“ミールシャトル”



株式会社中島製作所

☎ 0952-97-1121

[所] 佐賀市蓮池町蓮池66

[創業] 大正14年(1925年)

[従業員] 109名

[HP] <https://www.nakashima-mec.co.jp/> 中島製作所 検索

このポイント!



金属加工の中でも、特に溶接加工の評価が高い中島製作所。技術が必要とされるステンレスの薄い板同士の溶接を得意としています。5年、10年と経験を積んだ職人たちが高い水準で行っており、お客さまから“仕上がりがきれい”と好評価を得ています。

60
SAGA SAIKO
COMPANY PROFILE



製造業
(機械金属系)

日本タングステン 株式会社 基山工場

世界シェアを支える
タングステンの技術

高い技術で要望に応える

昭和6年(1931年)、タングステンの製造・販売を行う企業として創業した日本タングステン。その社名の通りタングステンを加工する粉末冶金※を得意とし、金属、電気電子材料、超硬合金、セラミックの分野でハードディスクの装置、半導体部品などさまざまなものづくりを行っています。

「炭化タングステンはダイヤモンドの次に硬い素材。それを材料から加工まで一貫生産できるのが私たちの強みです。大手メーカーさんのような大量生産ではなくお客さまのニッチなニーズに応えた少量多品種の製品化を成し得るのは、私たちの確かな粉末冶金の技術だと自信を持っています。特に、設計のノウハウと最終的に製品化する加工技術は大切にしており、長く受け継いでいきたいですね」と指宿部長は話します。

職人の技が光るダイカッター

サニタリー製品の輪郭加工に使用される超硬合金製ダイカッターは国内シェア1位を誇り、同社の主力製品です。従来のダイカッターは鉄製が主流ですがすぐに摩耗して使えなくなることが欠点でした。お客さまからもっと長寿命化したいという要望を受けて、同社独自の技術を適用することによって、世界に先駆けて超硬合金製ダイカッターの商品化に成功しました。

「作るときに一番難しいのは、焼く工程の段階でタングステンが半分くらいに収縮するため、最終的な成形加工を事前に予測することです。また、ダイカッター製品は硬い反面、欠けやすい性質を持つため、仕上げは機械ではなく職人が全て手で研磨しています。カッターの刃先の約30ミクロンという極細の幅をしっかりと仕上げられるのは、それだけ高い技術があるからです。さらに技術を継承するために、令和元年

(2019年)からは人材育成にも非常に力を入れています」と指宿部長は自信を持って話します。

令和13年(2031年)には創業100周年を迎える日本タングステン。これまで築いてきた粉末冶金の技術で価値を創造し、未来につなげます。



※粉末冶金: 金属などの粉末を成型し、焼結することで製品を作る製法のこと



超硬合金製ダイカッター製品は、
国内シェア1位

機械部品事業本部
ダイカッター事業部長
いぶすき こういち
指宿 耕一



日本タングステン株式会社 基山工場

☎ 0942-81-7700

[所] 三養基郡基山町大字園部3173-2

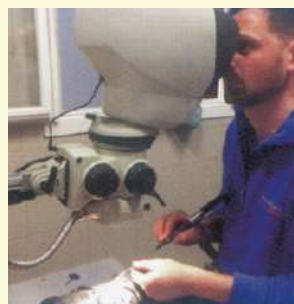
[代表者] 代表取締役社長 後藤 信志(ごとう しんじ)

[創業] 昭和6年(1931年)

[従業員] 396名

[HP] <https://www.nittan.co.jp/> 日本タングステン 検索

このポイント!



昭和61年(1986年)に生まれたダイカッターの出荷総数は累計で10,000本以上、世界40カ国以上で使用されています。納入したダイカッターの研磨を行うアフターケアのため、技術者は世界中にいます。日本タングステンは誇りとする研磨の技術でお客様の信頼を得ています。



有限会社 平田椅子製作所

家族のだんらんをつくる
椅子づくり



高品質の椅子づくり

設計から組立まで自社で一貫生産している椅子専門メーカーの平田椅子製作所。シンプルで洗練されたデザインと人間工学に基づき、機能性を併せ持った製品はどんなリビングにもなじみます。

バブル崩壊に伴う価格競争激化の波に対し、平田代表はそれまでの量産型からデザイン性を向上させた高品質・高付加価値の製品づくりに舵を切りました。

「高齢化が進む業界の将来性も見据え、10年かけてパーツの製造など全ての技術を身に付けました。ものづくり本来の楽しさややりがいを感じられるようになると、そこに魅力を感じて入る若い社員も増えました」と平田代表。

今では自社生産が強みとなり、家具メーカーの開発拠点として試作や生産、メンテナンスや補修も請け負っています。

座る人に寄り添った椅子

平成17年(2005年)から佐賀大学医学部などの協力を得て開発を進めた“人にやさしい椅子プロジェクト”。張り具合が調整でき、サイズ展開のある椅子を開発。長時間座っても負担が少なく、寝たきりだった人が座れるようになったり、立ち上がりがスムーズになったりと喜ばれています。

緻密な計算と、職人の技の粋を集めた“POSA”は人気シリーズに成長しました。

平田ブランドを強化

中国やASEANなど海外マーケットも視野に入れ、自社ブランディングの強化に取り組む平田代表。平成26年(2014年)には同じ諸富家具メーカーのレグナテックと互いの得意分野を生かした家具ブランド“ARIAKE”を立ち上げました。

海外デザイナーと組み、有明海や自然を

表現した洗練されたデザインと、卓越した家具職人による家具は、国内外で高く評価されています。「日本には北欧家具と対等に渡り合える力があります。むしろ出ていけないのが不思議なくらいです」と製品への自信を見せる平田代表。

今後の展望について平田代表は「椅子は人が一番触れる家具だから、使い勝手やデザイン、人がほっとできるような存在感をものづくりの中で表現していきたいです。そのためにデザイン性や技術の向上を目指します」とメイドイン佐賀の椅子に磨きをかけ続けます。



代表取締役
ひらた しょうじ
平田 尚二

人にやさしい椅子
“ポーザ”



有限会社平田椅子製作所

☎ 0952-47-6534

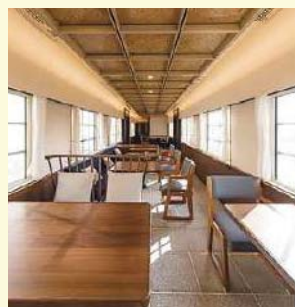
[所] 佐賀市諸富町大字徳富118-2

[創業] 昭和38年(1963年)

[従業員] 28名

[HP] <http://www.hiratachair.co.jp/> 平田椅子製作所 検索

このポイント!



平成31年(2019年)3月に誕生し、天神と大牟田を結ぶ観光列車“THE RAIL KITCHEN CHIKUGO”や伊豆を走る“ザ ロイヤルエクスプレス”の車両の椅子は平田椅子製作所が手掛けています。快適な旅を支える大事な役割を担う椅子に選ばれていることこそが高品質の証と言えます。

株式会社ミゾタ

水の総合エンジニアリング
として水とともに歩む



ゲートポンプでトップシェア

大正4年(1915年)に低平地でクリークが多い佐賀の地にあって、水田に水をくみ上げる農業用水ポンプの製造を行う企業として創業したミゾタ。主力の事業は逆流防止の水門(ゲート)と、ポンプの強制排水機能を一体化した“ゲートポンプ”の開発・製造を行う鉄工事業。ゲートポンプは、昭和60年(1985年)に特許を取得。省スペースで低コストだったこともあり、今や全国各地に展開し、国内トップシェアを誇っています。「ゲートポンプは全国にあり、お客さまからさまざまなニーズが出てきます。ゴミを絡みにくくすることや低い水位でも稼働できるようにすることなど長年にわたり常に改善を行うことで技術力を高め、そのノウハウを蓄積しています」と井田社長。

事業展開として多角化にも取り組み、浄水場・下水処理場の機械設備や水力発電設備、防災設備としてのトンネル内消火設

備、さらにはバイオ分野の設備まで扱っています。井田社長は「薄く、広く」が弊社の特徴で、バイオ事業は社員のアイデアからスタートしました。いろんな事業に挑戦することで経営環境の変化にも対応していかなければなりません」と話します。

幅広い事業の展開を支えているのが、高度な技術力を持つ社員たちです。その実力はものづくりマイスターや褒章を授章するほどで、技術を継承する“育つ環境”が整えられています。

水と人を豊かにするために

事業の中でも鉄工事業は、公的な事業が多く、社員のアフターフォローに対して高い評価を受けています。「お客さまから『使い方が分からなくなった』と連絡を受けて社員が飛んでいくこともあります。また、弊社は国や県、市と災害時の協定を結

んでおり、特に7月から10月にかけては雨が気にかかるので緊張します。大雨の予報時は社員が交代しながら徹夜で待機し、要請があればすぐに出動します。いざという時の社員一人一人の姿勢が誇らしいです」と井田社長。今後は防災・減災が求められる中でより“ミゾタ”が求められるように、培った技術力のさらなる向上に取り組みます。

水と人との関係をもっと豊かにするために、ミゾタはゲートポンプのパイオニアとして走り続けます。



取締役社長
井田 建

全国でトップシェアの
ゲートポンプ



株式会社ミゾタ

☎ 0952-26-2551

[所] 佐賀市伊勢町15-1

[創業] 大正4年(1915年)

[従業員] 402名

[HP] <http://www.mizota.co.jp/>

ミゾタ 検索

このポイント!



ゲートポンプの特徴は、保水と排水が1カ所でき、用地買収のコストを大幅に下げられる点にあります。また、門柱などのコンパクト化が可能で景観を損ないません。そのため、公共工事のコスト削減と環境保全の両面から社会に貢献しています。

63
SAGA SAIKO
COMPANY PROFILE



卸売業・小売業

株式会社安永

美の提供と人づくりで
社会を笑顔にする総合商社



サロン運営をサポート

美容室やエステサロンなどを対象に、良質な資材の提供と技術向上のための講習会を開催し、サロン運営のトータル支援を行う美の総合商社安永。

安永代表は「我が社では美の追求と人づくりを通してお客さまと社会に貢献することを目指しています。美容業は直接、お客さまの肌や髪に触れるからこそ、きちんとしたサービスを提供するため、評判の良い講師を安永トレーニングセンターに招き、カットやカラーの最新技術や確かな情報を生で伝える講習会を開催しています」と話します。

さらに日本ネイリスト協会の認定校として資格の取得も可能なほか、まつげエクステの講習会を開催するなど、ネイルサロン・エステサロンなども立ち上げからサポートしています。

九州佐賀国際空港からのアクセスの良さや、静かな環境などが喜ばれ、中国からの

受講生も多く、国内外を問わず、幅広い受講生に確かな技術を伝えています。

また、よりサロンオーナーの側に立った営業活動を行うため直営のサロンを立ち上げ、実践的な取組も進めています。

サロンに訪れるお客さまの笑顔のために、サロンオーナーの声に耳を傾け、確かな技術と情報を提供し続けています。

女性が輝く社会づくり

美を探求する中で、女性が輝き続ける社会づくりの重要性を感じた安永智子副社長は、安心して子育てできる、新たな育児スタイルを提案する“日本ハプトノミー協会”を創設。妊婦や赤ちゃんが安心して使えるフランス政府認定のSKINHAPTICS社のスキンケア製品と、その製品を使ったマタニティケアとベビーマッサージを日本で初めて導入しました。

「女性がまず自らを大切にし、自分らしく輝くことが、家庭や社会を明るくすることにつながります。マタニティケアを通して、妊婦さんをリラックス状態に導き、ハプトノミー※の“触れるケア”で、母性の開花を促します。安心して子育てできる環境を整え、佐賀から“もう一人子どもを産みたい”と思うお母さんを増やしたいです」と安永代表はほほ笑みます。

フランス式マタニティケアとベビーマッサージは佐賀を中心に全国に広がり、親子の愛情を深める場になっています。



※ハプトノミー：オランダ発祥の“自分で自分の体の感覚をケアする治療法”



代表取締役
やすなが ただし
安永 正

選び抜いた
美をサポートする商材



株式会社安永

☎ 0952-73-2940

[所] 小城市小城町452

[設立] 大正元年(1912年)

[従業員] 20名

[HP] <https://ys-beauty.co.jp/>

株式会社安永 検索

ポイント



安永は日本で唯一、妊婦や赤ちゃんにも安心して施せるフランス政府認定のベビーマッサージを導入し、講師の育成にも取り組んでいます。母親が安心して集える場所をつくり、そこで産前産後の正しい知識やケアを広め、女性が輝く社会づくりに貢献しています。

吉田刃物株式会社

佐賀刃物の伝統の技で
国内トップシェアを占める

鋭く頑丈な佐賀刃物

園芸農業、機械刃物、包丁など切れ味が良く、使いやすい刃物に定評がある吉田刃物の製品。中でも“鋼付ねじり鎌”は、草の根から土ごと削り取れると好評で、国内はもとより海外でもロングセラーの商品です。

元刃鍛冶の創業者である吉田清司氏が、柔らかい鉄と硬い鉄を合わせた“鋼付”の鎌の量産化に成功し、丈夫で折れにくく、切れ味が長持ちすると評判になりました。

鍛冶屋としては珍しく、昭和51年(1976年)に大型機械の導入のため多久市に工場を新設。販路が全国に広がり、“鋼付ねじり鎌”の国内トップシェアの座を獲得し続けています。

さらに、平成元年(1989年)には合併会社※を設立。3代目の吉田社長は「当時は成長途上の中国を、ものづくりで応援しよ

うという思いで設立したそうです。価値観の違いなどで戸惑うことも多々ありましたが、この経験のおかげで輸出入のノウハウを培うことができ、国際社会で生き抜く足掛かりになりました」と話します。



熟練の技術が光る“包丁”

現在、農業の機械化や少子化に伴い、既存商品の売上が伸び悩む中、成長しているのが高級包丁です。

平成25年(2013年)に日本食がユネスコ無形文化財に登録されたことをきっかけに、日本食やメイドインジャパンの製品が世界で高く評価されるようになりました。

新商品の包丁は、世界でもトップクラスの超高硬度のステンレス鋼を使用し、職人が鋼付の技術で鍛え上げています。

また、ステンレスの層を重ねてできる、独特な刃模様“ダマスカス鋼”はその美しさからヨーロッパを中心に海外でも人気が高まっています。

「伝統の技術を若い世代に伝承し、刃物を軸にしたさまざまな製品づくりに挑戦したいですね。これからもお客さまにとって使いやすい道具にこだわり続けていきます」と吉田社長の挑戦は続きます。

※合併会社：外国資本と国内資本が共同出資して設立、運営する会社のこと



代表取締役社長
よしだ けんじ
吉田 健司

海外からも注文殺到の
ZDP鋼の和包丁



吉田刃物株式会社

☎ 0952-76-3868

[所] 多久市南多久町大字花祭2808

[創業] 昭和21年(1946年)

[従業員] 40名

[HP] <http://www.hanamatsuri.co.jp/> 吉田刃物 検索

このポイント



江戸時代から続く佐賀刃物の伝統を受け継ぎ、家庭用から農業用まで豊富な刃物を製造。代表作ともいえる“鋼付ねじり鎌”は長年国内トップシェアを誇っています。刃物一筋で技術を極めるとともに、常に新しいことに挑戦し続け、世界への道を切り開いています。